



レポート
サマリー

森林セクター

ネイチャーポジティブに 向けたロードマップ

第1フェーズ

ネイチャーポジティブに関する定義の共有

①本報告書について

本報告書は、森林セクターにとって共通の「ネイチャーポジティブ」の定義を提供するものです。ネイチャーポジティブな事業戦略に取り組む森林関連企業の支援を目的として今後作成されるガイダンスやツールの基礎となるものです。

この定義は、自然の損失を止め、反転させるために、森林関連企業がバリューチェーン全体を通じて取らなければならない一連の総合的な活動に基づいており、各企業、森林セクター、さらには広範な経済システムの変革に向けた道筋を示すものです。

自然は現在、人類の歴史上かつてないほどの脅威にさらされています。世界がこの危機の深刻さと緊急性に気づくにつれ、グローバルな関心も高まっており、気候変動に伴う人類への影響に対する関心に迫る勢いです。

ネイチャーポジティブのコンセプトは、自然や自然が提供する生態系サービスを保全し回復するための取り組みとして、ビジネス界の団結を促しています。

この加速する勢いを最大限に利用するためには、ネイチャーポジティブの定義を明確にし、企業のネイチャーポジティブに関する戦略の実施を支援する実用的なツールやフレームワークを開発することが重要です。

森林セクターの企業は持続可能な経済林（ワーキング・フォレスト）の管理人として自らの事業やバリューチェーン全体における行動を通じて種や生態系の豊かさ、多様性、レジリエンスを保つという根本的な役割を担っています。

2022年1月、持続可能な開発のための世界経済人会議（WBCSD）の森林関連企業の集まりである[Forest Solutions Group \(FSG\)](#) は、ネイチャーポジティブに関連するセクター向けのロードマップの第一弾として、「森林セクター ネイチャーポジティブに向けたロードマップ」を開発する複数年にわたる取り組みを開始しました。これは、自然の損失を止め、反転させるための行動を拡大しようとする企業を支援し、科学的根拠に基づく自然関連のゴール・ターゲットを設定、定量化可能な測定指標を用いて進捗状況を開示することを目的としています。

フェーズ1として、森林セクターにとってのネイチャーポジティブについて、科学に基づく自然に関する目標設定を行うScience Based Targets for Nature (SBTN)や、自然関連財務情報開示タスクフォースTaskforce on Nature-related Financial Disclosures (TNFD)の枠組みと密接に連携した定義を提供しています。

②ネイチャーポジティブの定義

ネイチャーポジティブは、ビジネスにおける新しい概念であり、主要なステークホルダーがこれを採用し、事業に組み込むことで進化するものです。このロードマップでは、ネイチャーポジティブを「[The Global Goal for Nature](#)（自然に関するグローバル目標）」達成につながるグローバルな社会的目標であると定義し、測定可能で期限を定めた3つの目標 ①2020年から自然の損失をネットゼロにする、②2030年までにネットポジティブにする、③2050年までに完全に回復する、を示しています。

ネイチャーポジティブは、共同の社会的目標を示しており、社会のあらゆる構成要素が貢献する必要があります。2020年よりも多くの自然を2030年までに共同で取り戻すためには、ビジネス部門を含め各主体が取っている活動を特定し、実施し、開示する責任があります。

SBTNの緩和優先順位（図1参照）に基づき、自然の損失を止めることに貢献する活動（自然損失を回避、または低減するための活動）と、自然損失の反転に寄与する行動（自然を回復・再生するための行動）との明確な違いを紹介しています。

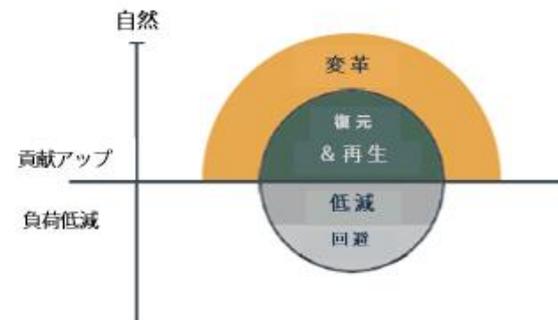
「自然に関するグローバル目標」を達成するためには、自然の再生・回復に向けた活動の総体的な影響が、損失を回避・減少させる影響を上回る必要があります。

即ち、個々の企業は自然の損失を遅らせたり止めるための行動を加速させると同時に、可能な際には再生・回復のための活動を通じてより多くの自然を取り戻す必要があるということです。2030年までのネットポジティブ、2050年までの完全な回復に向けた曲線を描くためには、負の影響を減らすだけでは不十分で、回復・再生・変革的行動が不可欠です(図2)。

図1:SBTNの行動フレームワーク (AR3T)



図2:ネイチャーポジティブに貢献する取組みの正のバランス



出典AR 3Tフレームワークと中間目標フレームワーク、Science Based Targets Network (2020) より引用。科学的根拠に基づく自然に関する目標 ビジネスのための初期ガイダンス

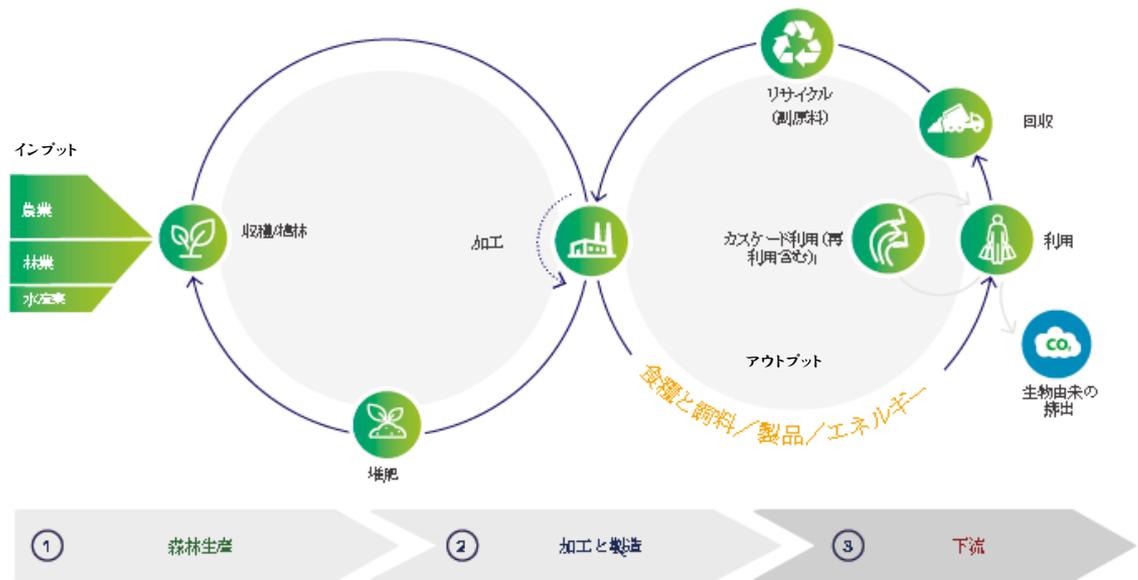
③バリューチェーンの中心に自然を位置付ける

継続的で増え続ける天然資源採取に依存する直線的なバリューチェーンは、現在の経済システムの基礎となっています。自然の損失を止めるには、サステナブルに管理された再生可能資源に基づく、より再生型の経済モデルへの移行が必要です。

森林セクターは、再生・リサイクル可能な材料として、ワーキング・フォレストから供給された木材を使ったサーキュラーバイオエコノミーを拡大させるのに恰好のポジションにあります。この「もうひとつの経済モデル」を拡大させるには、森林製品のバリューチェーン全体だけでなく、より広い事業環境の中で、計画的かつ協調的に行動する必要があります。

1. 森林製品の供給源となるワーキングフォレストを維持し拡大する
(森林での生産活動)
2. 加工・製造・輸送の負荷を低減する
(加工・製造)
3. 資材・製品の回収を最大限に行う
(下流)

図3:サーキュラーバイオエコノミーの流れ



④バリューチェーンに沿った 自然損失の停止と反転

自然の損失は、企業が自然に与える影響や自然への依存から生じている部分もあり、操業やバリューチェーンにおける重大なリスクを通じて、すでにビジネスを攪乱しています。

森林セクターの繁栄は豊かな生態系と切りわけ製造工程全てに関わる木材・木質繊維に大きく依存しており、自然リスクの管理は特に重要です。また、伐採サイクル故の長い時間軸を持つことも森林セクターの特徴です。森林のタイプにもよりますが、今日植えられた樹木は、数十年あるいは100年後に収穫されるため、その期間の気候条件の変化に耐えうるものでなければなりません。

次ページ以降の図は、自然の損失を止め、反転させるために森林経営を行う企業が森林製品のライフサイクルに沿って取るべき行動を示しています。実践例の多くは既に森林セクターの主流になっていますが、さらに推し進め、拡大し、同様の例を作っていくべきでしょう。

これら個々の行動は、企業戦略の一貫として策定されるべきもので、実践にあたって

は、バリューチェーン全体で多様なステークホルダーと、あるいは地域レベルでの協働が重要です。

企業は、最も影響力を発揮でき、最大のインパクトにつながる分野から優先的に、しかしすべての面で同時に行動すべきです。

インパクトの大きい回復・再生の活動の大半は、木材製品が由来するワーキングフォレストで行われており、そこでは森林セクターが自然と密接に関わりあっています。

- ・生物多様性と炭素の観点で、重要な価値のある地域を回復する
- ・気候条件に適応した在来種や絶滅危惧種の樹木の再導入
- ・種の棲息地間の結びつきの回復
- ・土壌と森林の炭素除去を拡大

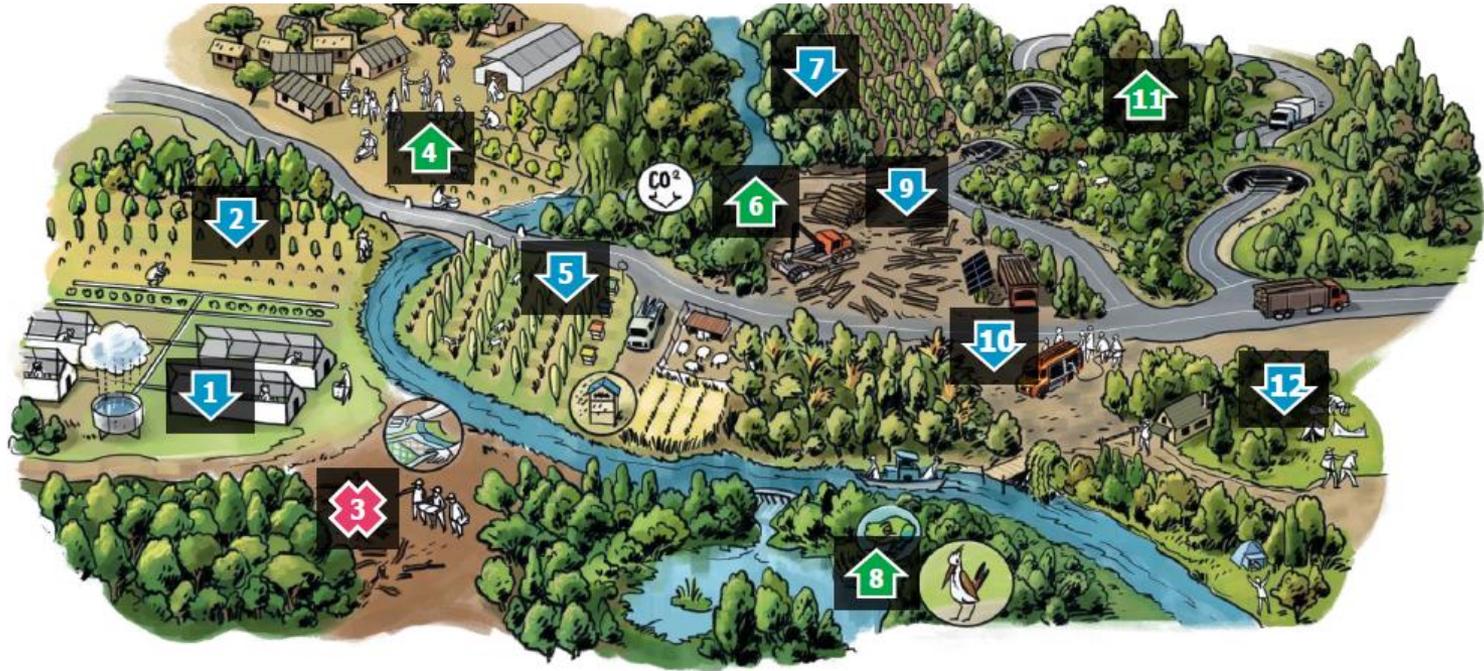
これらインパクトの大きい活動は、自然の損失を回避し低減するための行動と組み合わせることで、森林セクターがより多くの自然を取り戻すのにまたとない機会となります。



森林製品のライフサイクルに沿った自然配慮の取組み

持続可能な経済林（ワーキングフォレスト）で自然の損失を止め反転させるための行動

森林関連企業は、自社が管理し素材調達している森林においてサステナブルな森林経営を推進することでネイチャーポジティブに貢献します。伐採と植林の持続的なサイクルは、サーキュラーバイオエコノミーに再生可能な木材供給を担保し、同時に炭素除去、清浄水、生息地、経済生活など複数の便益を提供します。



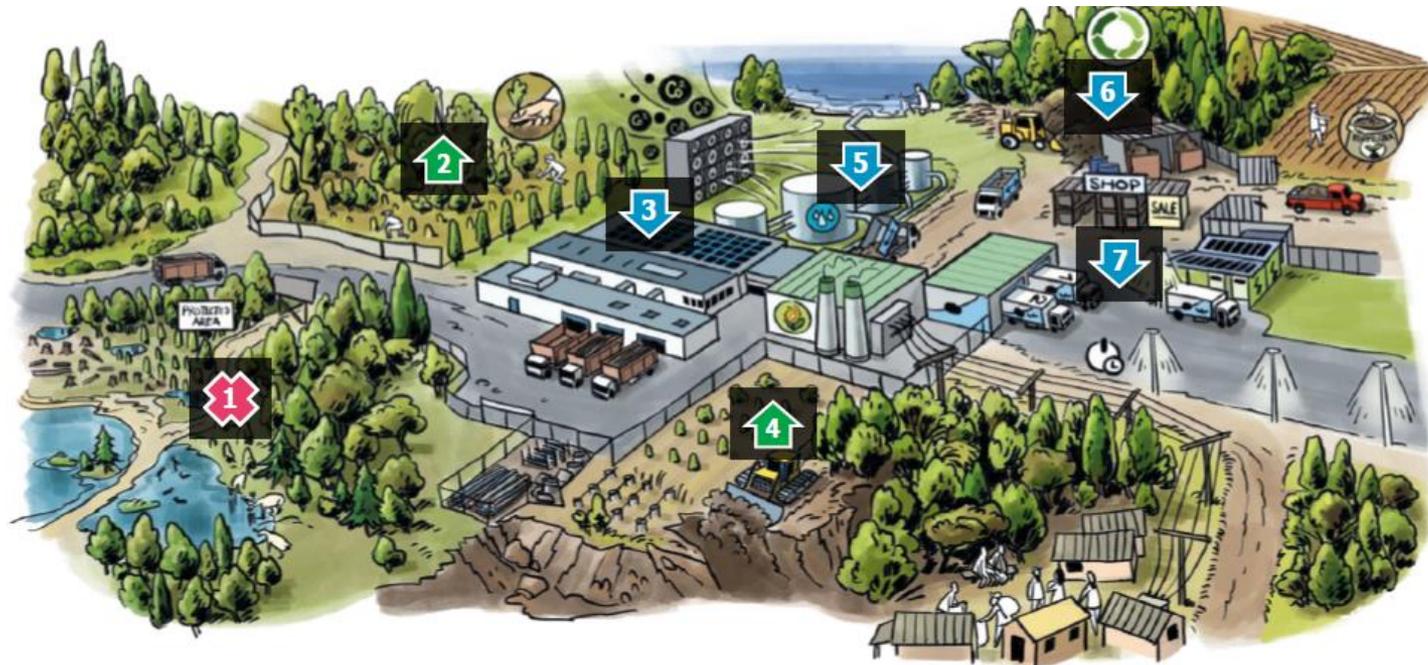
✖ 自然への影響を回避するための行動
 ↓ 自然への影響を低減するための行動
 ↑ 自然の回復と再生のための行動

- 1
 - 2
 - 3
 - 4
 - 5
 - 6
 - 7
 - 8
 - 9
 - 10
 - 11
 - 12
- 1 森林や苗畑で水の使用量、廃棄物、汚染を削減する
 2 伐採後の再植林時は森林の多様性を保全する
 3 森林破壊を避け、生物多様性価値が著しく高い地域を過度な人工植林地に転換することを避ける
 4 気候条件に適応する在来種や絶滅危惧種を再導入する
 5 土地を最大限に活用することで、土地要求を低減する
 6 土壌と森林のカーボン除去を拡大する
 7 湖・池等の水塊、生物多様性や炭素価値の高いエリアを保全する
 8 生物多様性と炭素価値の高いエリアを復元する
 9 伐採に伴う二酸化炭素排出の削減と生物多様性への影響を低減する
 10 気候変動や外来種に関連する影響を低減する
 11 生息地間の連携を回復する
 12 密漁、違法伐採の発生を減らす

森林製品のライフサイクルに沿った自然配慮の取組み

森林製品の加工・製造における自然の損失を止め反転させるための行動

森林関連企業は伐採した木材の加工やパルプ、紙、包装、ティッシュペーパー、建材、バイオマテリアル、バイオエネルギーなどの生活用品の製造にかかわる自然への影響を停止・反転させることでネイチャーポジティブに貢献します。



✖ 自然への影響を回避するための行動 ↓ 自然への影響を低減するための行動 ↑ 自然を回復し、再生するための行動

1

生物多様性の価値が高い地域や水ストレスの高い地域での新規事業を回避する

2

工場敷地内またはその周辺にある生物多様性の価値が高い地域を回復する

3

二酸化炭素の排出量と大気汚染を削減する

4

施設跡地を復元する

5

水の使用量、廃棄物および汚染を削減する

6

業務上の廃棄物を削減し、再利用する

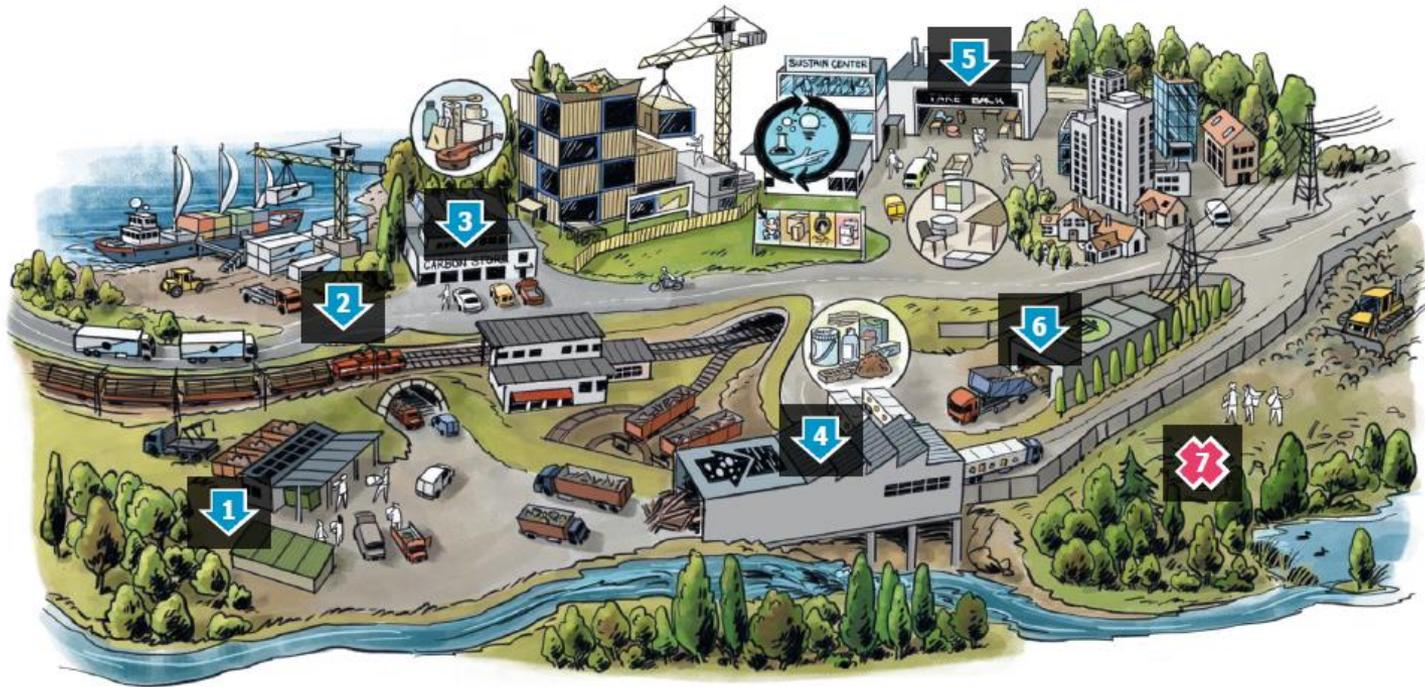
7

事業活動に伴う騒音・光害・臭気による公害を低減する

森林製品のライフサイクルに沿った自然配慮の取組み

森林製品の輸送・使用・廃棄において自然の損失を止め、反転させるための行動

森林関連企業は、輸送時の負荷を低減し、顧客やサプライチェーン下流のパートナーとサステナブルな森林製品や廃棄物の再利用、リサイクルを促進するとともに、安全な廃棄を通じてネイチャーポジティブに貢献します。



✖ 自然への影響を回避するための行動 ⬇ 自然への影響を低減するための行動 ⬆ 自然を回復し、再生するための行動

1

森林製品の回収・リサイクルを推進し、廃棄物を削減する

2

輸送に伴う二酸化炭素の排出量、水質・大気汚染物質の削減する

3

サーキュラーパイオエコノミーを拡大し、持続可能ではない材料の使用を削減する

4

残材、副産物の他産業での再利用促進による廃棄物削減する

5

製品寿命の向上による新製品需要の減少する

6

廃棄物処理に伴う大気・土壌・水質汚濁を低減する

7

生物多様性の価値が高い地域やその周辺への新たな廃棄物管理施設の設置を回避する

⑤行動へのコミットメント

ネイチャーポジティブを包括的に実現するには、システムレベルの変革を通じ、自然損失の背景にある要因を変えるための協力的な取り組みが必要です。例えば、意思決定の過程で自然を過小評価する支配的な考え方や経済システムを調整するために影響力を行使すること。企業は自らが所有する土地の境界を越え、思慮深く熟慮に基づいたパートナーシップを結び、操業する土地や地域のランドスケープ全体で自然の損失を止め・反転させる取組みに投資すること。また、自然や気候に関する政策目標を意欲的なものに修正するように政府に働きかけることが必要です。

WBCSDのFSGメンバーは、森林セクターにおける主要企業として、ネイチャーポジティブに関する共通の定義のもとに結集する必要性を認識しており、以下のような取組みにコミットしています。

- 評価と優先順位付け：自然に与える影響や自然への依存に関するメンバー企業の課題を特定、評価し、優先順位をつける。まずは自社の範囲内において、次にサプライチェーンのパートナーとも協働する。
- コミットする：優先度の高いエリアにおいて、証拠に裏打ちされたベースラインと参照条件を定義し、自然の損失を止め反転させるための科学的根拠に基づく期限付きゴールとターゲットにコミットする。

- 行動する：実行すべき明確な取組みを定義し、可能であればこれら取組みがどのように自然の総和での増加につながるかの分析を示す。メンバー企業は、取組みのインパクトと変化につながる自社の影響力に基づいて費用、取組み順序を示し、優先度を定める。
- 測定と評価：自然関連のターゲットに沿った一連の指標で、ベースラインに対する優先行動の成果を測定し報告する。
- 変革する：統合的かつ包括的なネットゼロとネイチャーポジティブ戦略・情報開示に対する社内の賛同構築を継続し、同時にシステム変革に向けたメンバー企業の影響範囲を広げるため効果的な外部パートナーシップに投資する。

緊急かつ広範囲な移行を加速するために必要なシステムレベルの変革を触媒作用として引き起こすため、私たちはバリューチェーンのパートナー、投資家、政策立案者に対し、その助けになるような状況を作り出せるよう結集することを求めます。

バリューチェーンのパートナーの皆様：森林製品は責任をもって調達されれば、気候変動の緩和と自然再生に貢献することができます。

自らが掲げる自然・気候に関する目標達成に向け、バリューチェーンの森林経営企業と協力し、サーキュラーバイオエコノミーを発展させる取組みを拡大。自然関連のインパクトをしっかりとした指標で測定し、開示してください。

投資家の皆様：競争力のある財務リターンと多くの共通便益をもたらす森林セクターへの投資により、ポートフォリオをネイチャーポジティブに移行するのを加速してください。ポートフォリオ企業の生態系サービスや製品を、市場がより正確に評価するまで待つべきではありません。投資判断に自然関連リスクを組み込み、ワーキングフォレスト固有の価値を認めることにリーダーシップを発揮してください。

政策立案者の皆様：サステナブルな企業リーダーはすでに自然のために行動していますが、2030年までに自然の損失を反転させるためこれらの行動を加速し、拡大するには政治的なリーダーシップが必要です。企業が自然への影響や依存度を評価し開示するインセンティブを提供し、自然の損失に加担するような補助金やインセンティブの仕組みを見直し、企業の行動に対して正しい方向性と金銭的インセンティブを提供してください。国内法を制定し、科学的根拠に基づいたグローバル目標や指標を採択してください。

このロードマップは、WBCSDのForest Solution Group (FSG) がWBCSDのNature Action Teamと密に協力し、Terranomics社の技術支援を受けて作成しました。作成プロセスでは、30の主要なステークホルダーから意見聴取しています。

Forest Solution Groupについて

WBCSDのFSGは森林セクターの主要企業が持続可能な開発に向けたソリューションを作り、共有するためのグローバルなプラットフォームです。

FSGのミッションは、持続可能な経済林（ワーキングフォレスト）の繁栄に根差した包括的なサーキュラーバイオエコノミーを発展させることです。

メンバー企業は、世界中の森林エリアでパルプ、紙、包装、木材、バイオ素材、バイオエネルギー、森林アセットマネジメントなど、幅広い種類の森林製品を扱っています。合計で1,650億米ドル以上の収益を上げ、従業員数は26万人。2,000万ha以上の土地を所有・管理しており、そのうち98%は第三者認証を受け、24%は保全や回復がなされています。

[LinkedIn](#) と www.wbcd.org/FSG でフォローしてください。



WBCSDについて

WBCSDは、ネットゼロ、ネイチャーポジティブ、より公平な未来の実現に必要な変革を加速するために包括的に活動する200以上の世界を代表するサステナブル企業のCEOが主導するコミュニティです。

気候、自然、不平等といったサステナビリティにおける課題に取り組むため、企業経営者やサステナビリティのリーダーと交流し、障壁や機会に関する実践的な洞察を共有しています。また、これらの洞察からCEOに向けたハウツーガイドを共同で開発しています。さらにツールやプラットフォームを開発し、企業がセクターや地域を超えて課題に取り組む支援をしています。

会員企業はあらゆる業種、経済圏から集まっており、合計で8.5兆米ドル以上の収益と従業員1,900万を有します。約70カ国のビジネス協議会との連携により、会員企業に対して比類ないネットワークを提供しています。1995年以来、WBCSDは最も困難であるサステナビリティ課題に対して会員企業と協働し、バリューチェーンに沿ってまたはバリューチェーン全体にわたってソリューションを提供するというユニークな立場にあります。

私たちは、プラネタリーバウンダリーの中で、今世紀半ばまでに90億以上になると見込まれる人類がよりよく暮らすというビジョンで結束し、サステナビリティにおいてビジネス界の声をリードしています。

[Twitter](#) と [LinkedIn](#)、<https://www.wbcd.org/> でフォローしてください。

Copyright© WBCSD,
November 2022

免責事項：

この資料は住友林業株式会社により翻訳されました。WBCSDは報告書の発行をサポートしましたが、翻訳された内容を確認しておりません。

**World Business Council
for Sustainable Development**

Geneva, Amsterdam, New Delhi, London, New York City, Singapore

www.wbcsd.org

